

図書館からお知らせ

三館一斉休館します

10月25日(日)～11月3日(火・祝)

各図書館をつなぐシステムを更新するため、三館一斉に休館します。また、葦山図書館、長岡図書館の特別整理も実施します。期間中は、貸出延長、予約、資料問い合わせ、ホームページからの検索・予約もできません。ご不便をおかけしますが、ご了承ください。なお、11月4日は水曜日ですが、葦山図書館も開館します。詳しくは、図書館カレンダーをご確認ください。

☎ 中央図書館
☎ 0558-76-5566



図書館だより

今月のおすすめ ～ムーミン 70周年～

1945年、ムーミントロールの物語、最初の1冊がスウェーデンで出版されました。今年は出版70周年です。



『小さなトロールと大きな洪水』
トーベ・ヤンソン (作・絵)
富原真弓 (訳) / 講談社



暗くて寒い森の中、いなくなったムーミンパパをさがすムーミン母子…。これがムーミンの童話シリーズ全9巻の最初の1冊。【全館】

『名倉靖博画集ムーミン』
名倉靖博 (著) / 白水社

テレビアニメ「楽しいムーミン一家」のキャラクターデザインを手がけた著者による、カラーイラストや詳細なキャラクター設定図など。【中央・葦山】

■映像化情報に注目

映画化、テレビドラマ化される作品の原作本や関連本を各館で紹介しています。人気作品はなかなか棚に戻らないので公開中・放送期間中に借りられればラッキーです。本と映像作品、あなたならどちらを先に楽しめますか？



図書館カレンダー
モバイル版QRコード



- 『ムーミンのたからもの』 トーベ・ヤンソン(原作) / 講談社【中央】
- 『ぼうけんにいこうよ、ムーミントロール』 トーベ&ラルス・ヤンソン (原作・絵), 当麻ゆか(訳) / 徳間書店【葦山・長岡】
- 『ムーミンパパの「手帖」』 トーベ・ヤンソンとムーミンの世界』 東宏治(著) / 鳥影社【中央・葦山】
- 『ムーミン童話の百科事典』 高橋静男, 渡部翠(編) / 講談社【葦山】

図書館ホームページ <http://www.izunokuni.library-town.com/> ☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566

10月	中央図書館	5日(月)、12日(月・祝)、19日(月)、25日(日)～	葦山図書館	7日(水)、12日(月・祝)、14日(水)、21日(水)、25日(日)～	長岡図書館	5日(月)、12日(月・祝)、13日(火)、19日(月)、25日(日)～
休館日		11月3日(火・祝)	25日(日)～11月3日(火・祝)	25日(日)～11月3日(火・祝)		

あなたの特技を講座で教えてみませんか？

生涯学習きっかけ作り塾 講師募集

☎ 市役所社会教育課
☎ 055-948-1461



講座の様子

平成28年度に市で実施する、生涯学習きっかけ作り塾の講師を募集します。講師になるためには、市の条件を満たし、かつ説明会への出席が必要です。

説明会日時 / 11月5日(木) 19:00～

ところ / あやめ会館 多目的ホール

内容 / 事業内容、年間スケジュールの説明をします。

対象 / 自主的に講座を開講し、講師を勤められる人

※市主催としてふさわしくない内容の場合はお断りすることがあります。詳細は直接お問い合わせいただくか、市ホームページをご覧ください。

文化財通信

その124

葦山反射炉で作られた南部産銃鉄製カノン砲 (その2)

☎ 市役所文化財課
☎ 055-948-1428



万延元年日記 4月16日条
(公益財団法人江川文庫蔵)

万延元年(1860)3月24日、南部産銃鉄1,500貫目(約5.6t)を積んだ船が網代浦(現熱海市)に到着しました。葦山反射炉で鉄製18ポンドカノン砲を製造するための材料です。陸揚げされた銃鉄は、網代から葦山反射炉まで牛馬によって運ばれました。材料の到着に合わせて、幕府勘定所の役人が2人、立ち会いとして派遣されてきます。幕府としても、南部産銃鉄製のカノン砲製造が成功するかどうか、重大な関心を持っていました。さて、カノン砲の製造は、まず銃型の製作から開始されました。二つに分かれた鉄製の外型に土(銃型の砂と粘土を混ぜたもの)を詰めて成形、接合、乾燥することで銃型ができあがります。万延元年の「日記」によれば、4月4日から作業が始まり、8日に接合、翌9日に「温室」(型乾燥小屋のことと思われる)に入れて乾燥に取り掛かったとあります。銃型の製作に続いて、4月11日から14日にかけて、およそ500貫目ずつ南部産銃鉄の「吹流し」が行われ

れました。この工程について詳細はわかっていませんが、反射炉での溶解の前に、材料となる銃鉄を踏輪で再溶解して形状・成分の均質化をはかるものであったと考えられます。こうした準備を経て、4月16日夜四つ時(午後10時ごろ)、一番反射炉(南炉)に火が入られました。炉内に積み込まれた南部産銃鉄は1,200貫目(約4.5t)余。この時、ひとつの炉では容量が足りないため、左右2炉の同時操作が実施されています。点火からおよそ2時間で左右の炉とも銃鉄が溶け始め、さらに3時間後には「全溶解」となります。七時半(午前5時ごろ)には出湯口が開かれ、溶けた鉄が銃型に注ぎ込まれました。そして、六つ時(午前6時ごろ)には「鑄込仕舞」となっています。点火から鑄込み完了まで、およそ8時間かかっていることがわかります。この後、工程は銃型の取り外し、廃頭切断(砲身を均質に保つため、実際の寸法よりも長く鑄込まれる余分な部分)、巢中鑄開(砲身内部のくり抜き)へと進んでいきます。(その3へ続く)